

平成21年度

分野:病態診断・**生化学**

家畜:**野鳥**

担当:佐藤千尋

飼育野鳥(ヤマドリ、キジ)の幼雛に発生した栄養性筋変性症

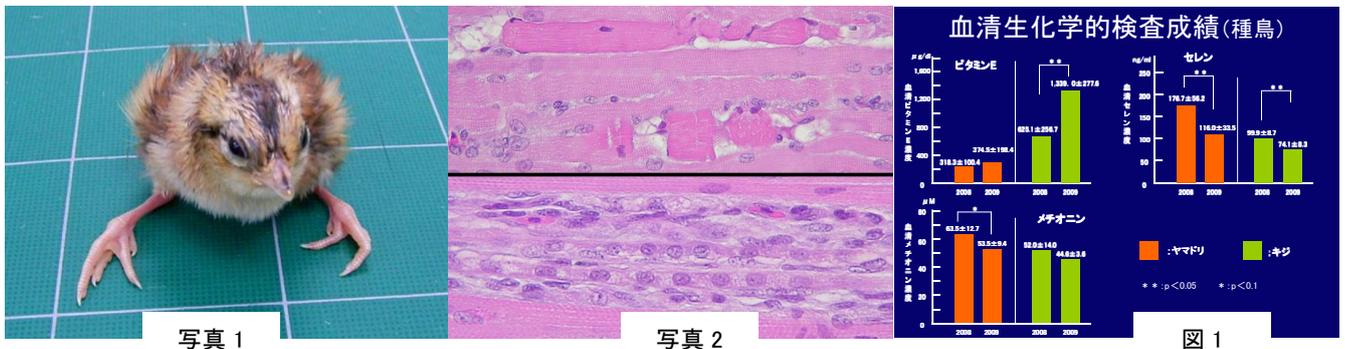
【目的】

放鳥向けに飼育されているヤマドリとキジで発生した孵化率と雛の生存率が低下した事例について原因究明を行い、野鳥飼育における栄養管理(ミネラル管理)の注意点を明らかにしました。

【成績の概要】

- 発生施設 :各約 20 羽のヤマドリとキジの種鳥を飼養する施設(放鳥目的)
- 経緯 :給与飼料が変更された 2009 年 3~6 月に得た卵の孵化率(ヤマドリ 44、キジ 20%)および 4 日齢までの雛の生存率(11、0%)が著しく低下し、多くの雛に孵化直後から脚弱がみられました。(写真1)種鳥に臨床異常は認められず、種鳥と雛に抗生物質は投与されていませんでした。
- 検査結果 : 瀕死期の 1 日齢のヤマドリ 5 羽とキジ 3 羽の組織学的検査により、両鳥種の雛の胸筋と脚筋に筋線維の硝子様変性と再生性変化が観察されました。(写真2) 2009 年 9 月から 6 週間に亘り、計 24 羽の両鳥種の種鳥に、2008 年あるいは 2009 年の飼料を給与した後、2009 年の飼料給与後の各血清濃度を 2008 年のそれと比べた。ヤマドリ(2009 年;116.0、2008 年;176.7 ng/ml)とキジ(74.1、99.9)のセレンが有意に低く、ヤマドリではメチオニン(53.3、63.5 μM)も低い傾向を示しました。(図1)

以上から、2009 年の両鳥種の種鳥へのセレンとメチオニンの給与不足が、本病に関与したと推察されました。



【成績の活用】

保護野鳥の飼育管理への応用

(野鳥飼育においては、飼料についてセレンとメチオニンが不足しないよう、栄養管理を徹底することが望まれます。)

【留意事項・備考】

屋内飼育の愛玩鳥に異常を感じた場合は、かかりつけの獣医師に相談しましょう。